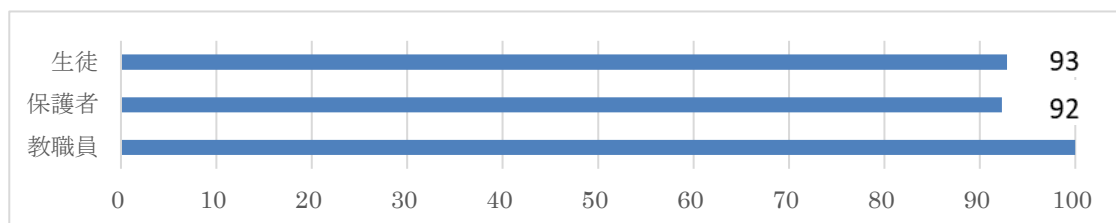


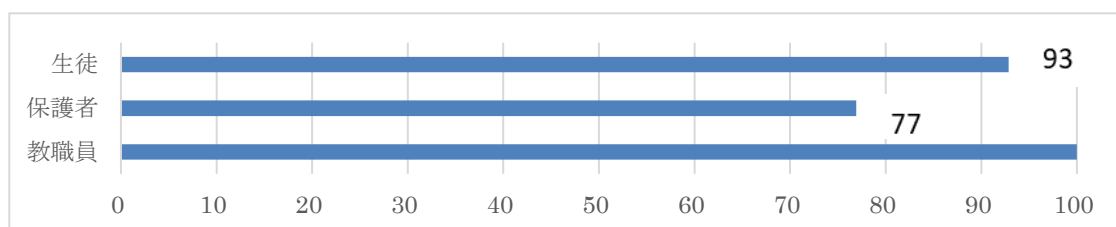
評価項目別「生徒」「保護者」「教職員」の評価比較

回答基準「1 そう思う」と「2 どちらかと言えばそう思う」を合わせた数値で比較しています。 (単位：%)

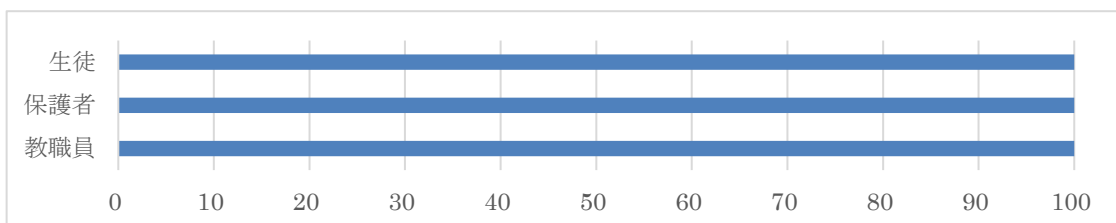
1,学校は、生徒の希望・期待を生かし、それに応えようとしている。



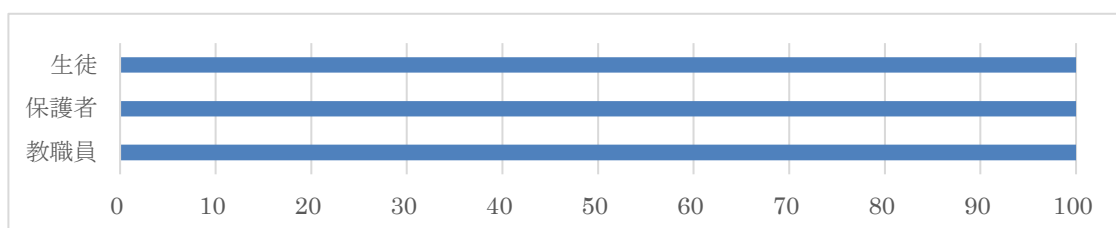
2,学校は、生徒一人ひとりを大切にした指導や支援をしている。



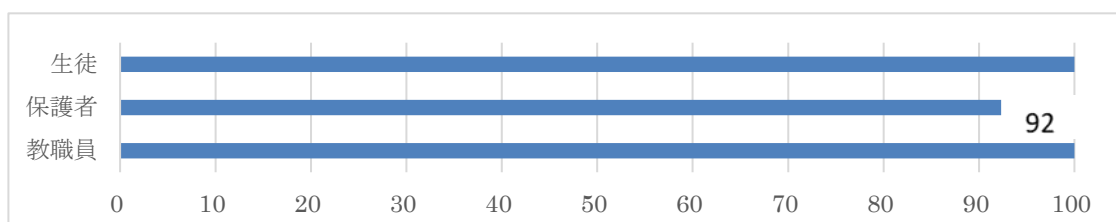
3,先生は、授業の内容や教え方の工夫、分かりやすい授業をしている。



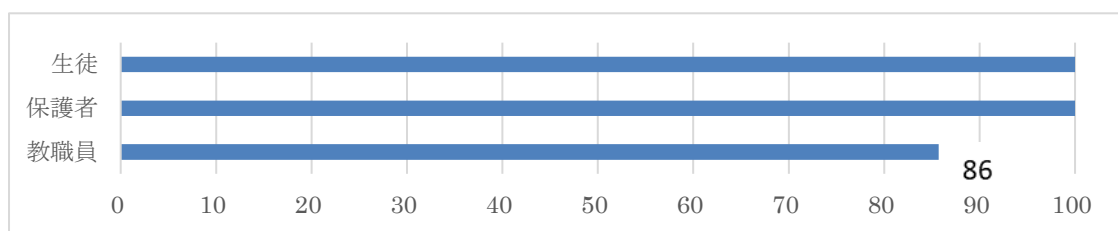
4,先生は、学習活動を多面的に評価している。



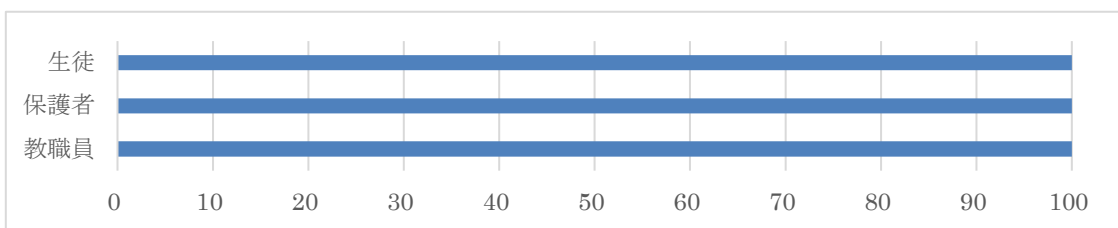
5,学校は、有意義な学校行事（体験学習、釜高祭、生活体験発表会等）を企画・実施している。



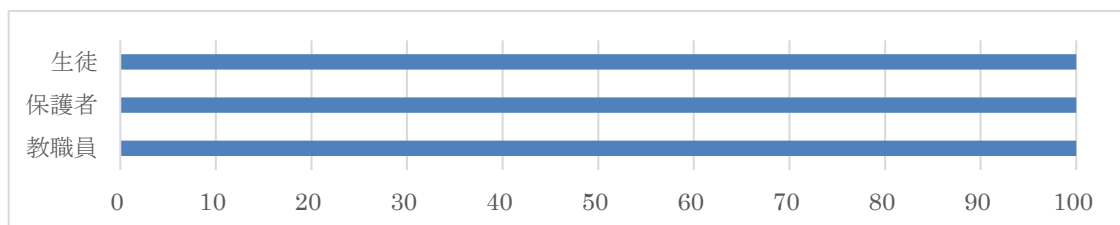
6,学校は、服装・挨拶・交通安全指導を適切に行っている。



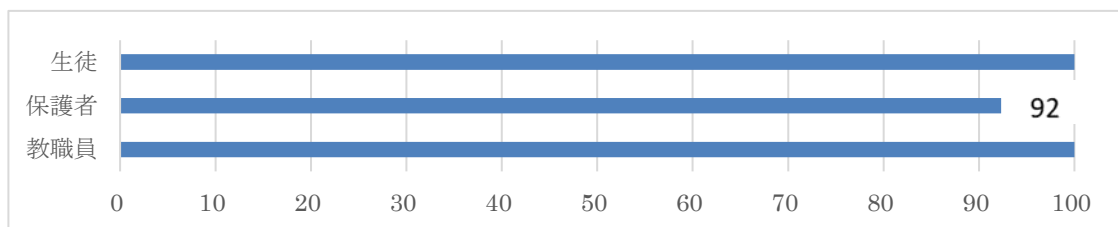
7,学校は、いじめの未然防止・早期発見に努めている。



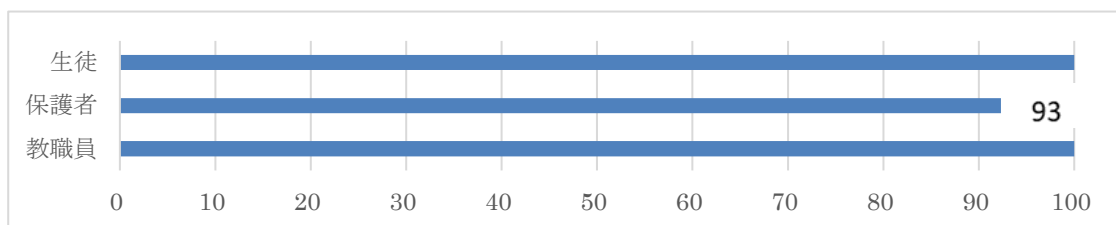
8,学校は、健康指導・疾病予防・健康管理等の指導を適切に行っている。



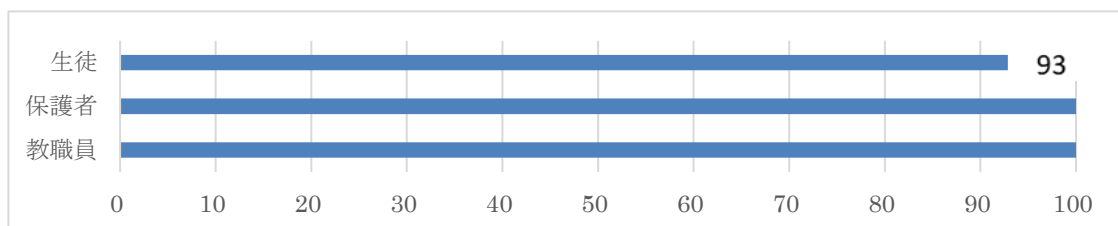
9,学校は、教育相談及び心身の健康相談等を適切に行っている。



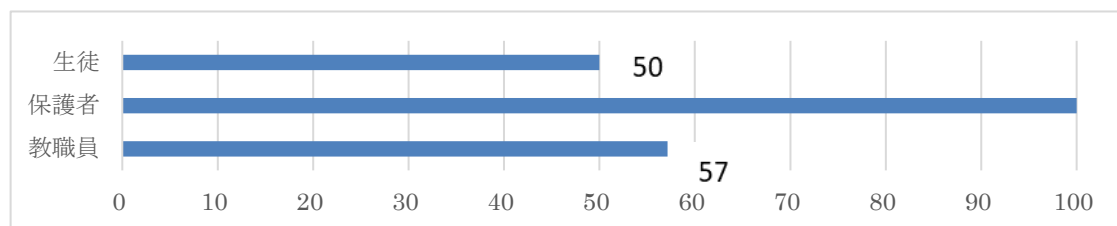
10,学校は、防災体験学習や避難訓練等を実施し、防災意識の高揚を図っている。



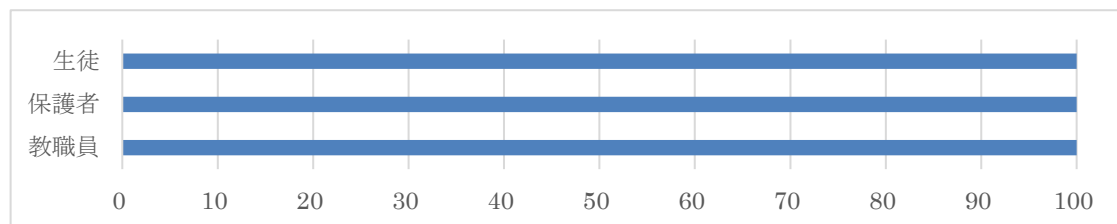
11,生徒は、「自ら学び、考え、判断する」ことができるようになっている。



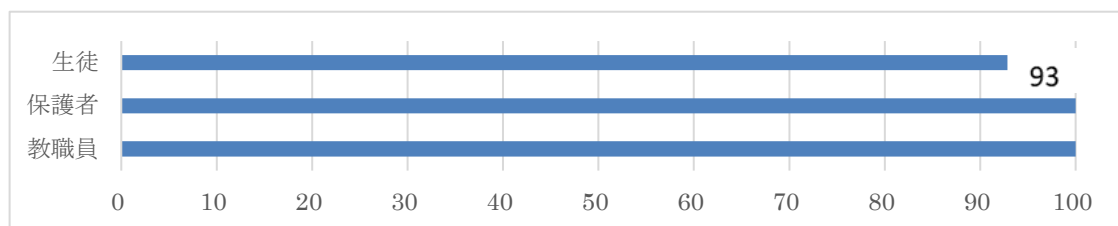
12,生徒は、家庭学習に取り組んでいる。



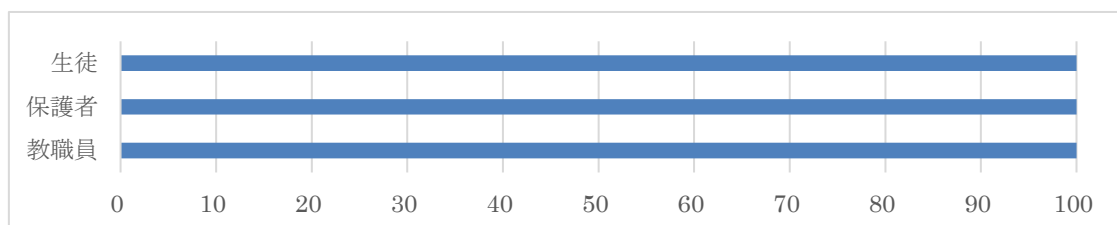
13,生徒は、学校行事等を通し、コミュニケーション能力を高めたり、他者を尊重したりしている。



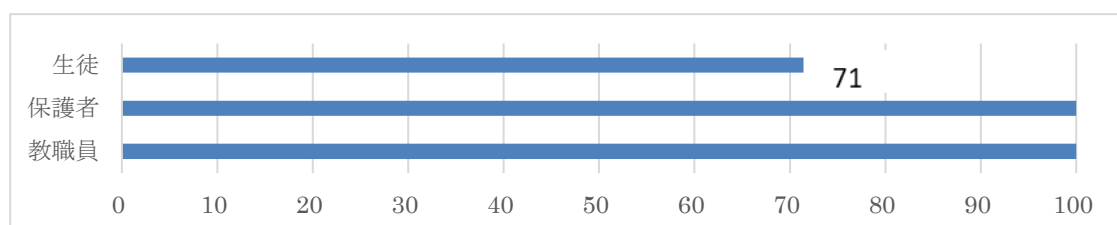
14,生徒は、生徒会活動・体験学習等を通し、主体性や協働意識を高めている。



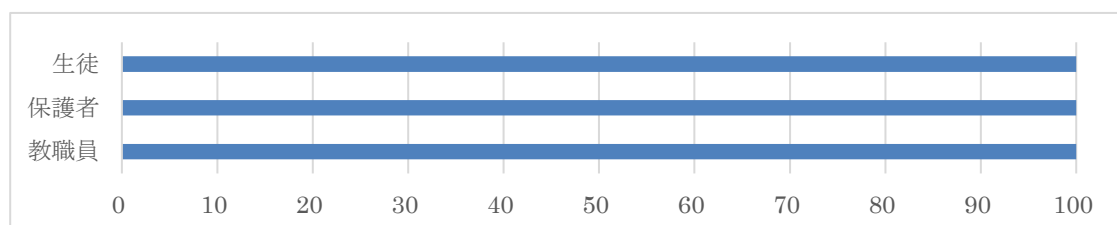
15,生徒は、いじめと疑われる言動がないよう、心掛けている。



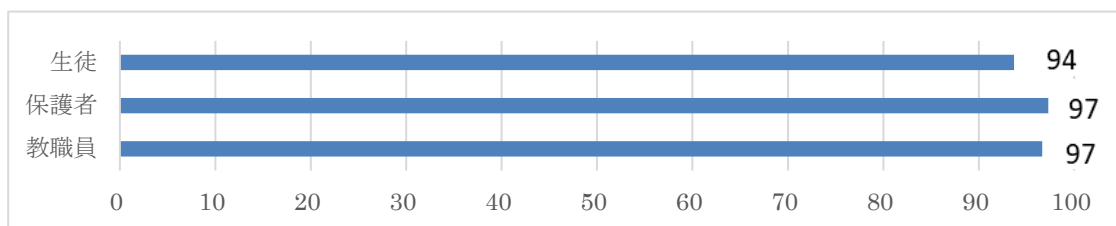
16,生徒は、事業所見学等の進路学習をきっかけに進路意識を高めている。



17,生徒は、本校での活動を通し「成長」している。



18,全体



令和5年度 学校評価集計結果分析及び考察

1 全体

【分析】

今回、同一項目について、生徒・保護者・教職員の評価を比較するため、大幅に評価項目を改訂するとともに、評価基準も変更して実施した。評価基準1「そう思う」と評価基準2「どちらかと言えばそう思う」の合計については、生徒94%、保護者97%、教職員97%であり、全体として評価は高い。

【考察】

この高水準の維持をめざし、次年度以降も生徒の資質・能力の伸長・発達のために、教育活動全体を通じて適切な指導・援助を行う。

2 生徒

【分析】

評価基準1「そう思う」と評価基準2「どちらかと言えばそう思う」の合計が80%未満の評価項目

⇒17項目中2項目

No.12「あなたは、予習や復習、週課題など家庭学習に取り組んでいる」 50%

No.16「あなたは、事業所見学（キャリアアップ事業）やインターンシップなどの進路学習をきっかけに、将来の生き方や進路について考えている。」 71%

【考察】

No.12について、家庭学習の効果の実感や意義の再認識ができるように工夫をする。また、生徒個々に応じた課題の出し方等の検討をする。No.16について、生徒のニーズを把握したうえで実施計画を立案し、生徒自身の自己理解や自己有用感につながるよう、進路学習の事前及び事後指導の充実を図る。また、将来の生き方や進路について主体的に考える機会を積極的に提供する。

3 保護者

【分析】

評価基準1「そう思う」と評価基準2「どちらかと言えばそう思う」の合計が80%未満の評価項目

⇒17項目中1項目

No.2「学校は、生徒一人ひとりを大切にしたい指導や支援をしている。」 77%

【考察】

生徒理解に努めるとともに、心理的安全性に関する校内研修等を通して指導や支援の方法を学び直す。また、教職員間での共通理解のもと、組織的に対応する。

4 教職員

【分析】

評価基準1「そう思う」と評価基準2「どちらかと言えばそう思う」の合計が80%未満の評価項目

⇒17項目中1項目

No.12「私は、私は、週課題等の提示を通し、生徒が家庭学習を習慣づけられるよう工夫している。」 57%

【考察】

本項目は生徒の低評価項目と相関性をもつ。生徒が主体的に家庭学習に取り組めるよう、

家庭学習の効果を実感したり、意義を再認識したりすることができるように工夫する。
また、生徒個々の学習の習熟度に応じた課題の内容や分量などを検討する。

5 評価に大きな差異が生じた項目

(評価基準1「そう思う」評価基準2「どちらかと言えばそう思う」の合計で比較)

①評価項目2

「生徒一人一人を大切にした指導や支援」について

【分析】

生徒：93% 保護者：77% 教職員：100%

【考察】

教職員の指導や支援が十分ではないとする保護者や生徒が少なからず存在することを謙虚に受け止めるとともに、研修等を通し、生徒一人一人を大切にした指導・支援ができるよう力量を高める。また、学校の教育活動について家庭へ発信する頻度を高める。

②評価項目12

「家庭学習への取り組み」に対する評価について

【分析】

生徒：50% 保護者：100% 教職員：57%

【考察】

生徒及び保護者に対し、家庭学習の効果の実感や意義を再認識してもらうよう、工夫する。また、家庭学習の定着に向け、御家庭の協力をお願いする。

③評価項目16

「事業所見学等の進路学習をきっかけとした進路意識の高揚」について

【分析】

生徒：71% 保護者：100% 教職員：100%

【考察】

「2 生徒の評価結果について」の【考察】で述べたように、生徒自身の自己理解や自己有用感につながるよう、進路学習の事前及び事後指導の充実を図る。また、現在の進路学習が生徒のニーズにあっているか検証する。